

*Series of the Ticket*  
シリーズ・ザ・チケット

～パラレル外伝～

**MONEY**

**マネー**

**108**

*Series of the Ticket*  
シリーズ・ザ・チケット

～パラレル外伝～

**MONEY**

マネー

**108**

明日は返済日

しかしどう考えても返す術がない

私はこれまでにやった事のない行動を取ってみました

「お金はないけど、返済しに出かけようか」

# まえがき

今回はお金のお話です。

この作品は、多くの方々にとって「苦勞の種」となっているお金を、正しい形に設定し直す事が目的です。

正しい形とは、

「お金とは充足の構成要素である」

ということです。

これだけ読むと、何のことだか分からないと思います。

しかしこの本を読み進めるにしたがって「お金の意味」が理解できれば、そしてそれをあなたが経験し始める事になれば、この言葉

はきつとなんの抵抗もなくスツと腑ふに落ちる事と思います。

また、この作品はパラレルシリーズと深く関連する話も出てきます。パラレルの読者の方にも興味深くお読み頂けることと思います。

後半では私自身の実体験も出てきます。

そしてこの実体験から私が導き出した結論とは…

それでは早速スタートしましょう。



マネー  
インデックス



まえがき 1

プロローグ 13

**お金の正体** 28

必要不可欠という誤解 29

**お金の意味** 43

経験できなくなる欠乏 44

目標は何？ 51

*Chap. 2*   *Chap. 1*

*Chap. 5*   *Chap. 4*

*Chap. 3*

お金という手段 53

**優先順位** 61

必要不可欠な要素 62

手に入れたという錯覚 69

**仮想体験** 107

変わっていない状況 108

**すり替わった目標** 123

経験と現状の不一致 124

*Chap. 8*    *Chap. 7*    *Chap. 6*

|                |     |  |  |  |  |
|----------------|-----|--|--|--|--|
| 怠け者の法則         | 168 |  |  |  |  |
| <b>本質的なテーマ</b> | 167 |  |  |  |  |
| 労働は不可欠か        | 158 |  |  |  |  |
| <b>根本的な疑問</b>  | 157 |  |  |  |  |
| 結果という実像        | 152 |  |  |  |  |
| 不幸の構成要素        | 138 |  |  |  |  |
| <b>お金の現れ方</b>  | 137 |  |  |  |  |

Chap. 11

Chap. 10

Chap. 9

|                             |     |         |     |                             |     |         |     |
|-----------------------------|-----|---------|-----|-----------------------------|-----|---------|-----|
| 途轍 <small>とてつ</small> もない想定 | 250 | 気づき     | 227 | 収入を齎 <small>もたら</small> すもの | 203 | 労働という信念 | 187 |
| 奇跡的な偶然                      | 238 | あり得ない選択 | 228 | 存在の示す指針                     | 204 | 収入の鍵    | 188 |
|                             |     | その都度の選択 | 210 |                             |     |         |     |

*Chap. 14*

**充足の出所**

281

ありきたりなルート

282

騙された脳

301

*Chap. 13*

**働かずに収入を得る**

269

大それたアイデア

270

*Chap. 12*

**創造される法則**

261

脈動し始める法則

262

労働の再認定  
308

エピソード  
313

あとがき  
349



# *Prologue*

プロローグ



今回はお金の話です。

「並行世界の話は一日お預けですか？」

そうです。

今回はパラレルワールドの構造やパラレルシフトの方法について正面きつて解説することはありません。

ただしお話が進むにつれて、これまでパラレルでお話ししてきた事が今回のテーマと密接に結びついていて、事に気付くと思いますよ。

「そっすか？」

だから順序としてはこれでちょうど良いんです。これの前に「DEBUG2」を出しておくのも必要なことだったんです。

「そうなんですか。じゃあこの本は、あくまでこれまでのパラレルシリーズやDEBUGシリーズを読んできた読者が対象ということになるんですかね？」

そんなことはありませんよ。チケットやパラレルシリーズ、DEBUGシリーズを読んでも大丈夫。この本だけで完結する内容です。

もちろん、それらの著作を並行してお読みいただいた方が理解は深まるし得られる気づきも多いとは思いますが、でも、私の他の著作

を知らない方がいきなりこの本を読んだとしても、充分に実用的な  
気付きがもたらされるはずです。

「そりゃ良かった。」

「…でもですね…」

なんででしょうか？何か引っかけられますか？

「今回の『お金』というテーマは、かなりシビアでセンシティブな問  
題だと思つてですよ」

「問題」かどうかはともかく、多くの人にとってお金がシビアでセ

ンシティブなテーマだということは理解していますよ。だからこそこのテーマを取り上げたのです。絶好のタイミングで、です。

「絶好のタイミングかどうかは知りませんが、テーマがテーマなだけに少し心配なんですよ」

えっ？何がですか？

「だって『お金』ですよ。これまでのようなテーマを扱うのとは訳が違っじゃないですか」

そうですかね？なんの違いもないと思いますけど。

「…全然分かっていないですね。私はあなたのことを心配して忠告しているんですよ」

そりゃ大変有り難いんですが、正直なところ何について心配してくださいっているのかさっぱり分かりません。

「じゃあ説明しますよ。

良いですか。テーマはお金です。これまでの形而上学的なテーマとは根本的に異なるんです。

お金は私たちの生活と密接に結びついている現実的な問題ですよ。重要なのは現実上でそれを得られるのか得られないのか。ハッキリし

ているんだわ」

ほうほう。

「形而上学的なテーマなら、そこで何らかの気づきが得られたのなら、それはそれで十分に価値があることだと言えるのかもしれない。以前よりは豊かな精神性を獲得したという観点においてです。たとえばそれが生活上何の実用性もなくともね。

しかしお金は違う。『お金とはそういうものなのか』と、それについて何らかの気づきが得られたとしても、それに実用性や実効性が伴わなければ何の意味もない。虚しいだけですよ。だって実際にはお金は入ってきていないんだから」

なるほどね。

「読者の方もきつと同じ気持ちですよ。このテーマで欲しいのは気づきじゃない。お金という現実的な成果そのものなんですよ」

よく分かりました。

その上でいいますけど、あなたはまたしても大きな勘違いをしていますよ。

「またそのフレーズですか」

そりゃこっちの台詞ですよ。どれだけ勘違いすれば気が済むんですか。勘違いフエチですか。

「何ですか勘違いフエチって」

それとも勘違いフエアですか。

「『絶賛開催中!』ってか!」

いいですか。私は何も形而上学的なフワフワした主張をただ並べ立てて、あなたや読者の方に日常の喧噪から離れて一時的な気分転換をしてもらおうと思ってこの本を書いているわけではありません。



この本に限らず、チケット、DEBUG、パラレル、ブログの記事、質疑応答：どれもそんなエンターテインメント目的で書いたことは一度もありません。

全て「あなた方に実用的な実際の利益を得て欲しい」そのつもりで書いているし、そこで述べられているのはそのための極めて実用的な内容です。

形而上学的なフワフワとした論議や理論展開がその目的じゃない。そんなものはどうでも良いんです。ターゲットは「**実際の実用的な利益**」そのみです。

あなたがそれを「フワフワした形而上学的な弁舌」と感じてしま

うのは、そのように自分の現実から切り離して概念化しようとしているからですよ。

私は常に実用的な観点からしかお話していません。それを「実用的ではない」と言って切り捨て、利用できないようにしているのはあなた自身なんですよ。

「そんな風に一方的にこっちの責任みたいに言われると、なんだか凹みますね」

別にあなたが悪いと言ってる訳じゃありませんよ。そうしているのはあなたの中の自動反応です。

「バグですか。それともエゴか。どっちでも同じじゃないか」

それはこの際どうでも良いですよ。自分の中にそういう自動反応がある、ということを理解できていれば良いんです。

「でも自動反応である以上、それは止められないんですよね」

そうですね。

「じゃあどうしたって無理じゃないですか。そこから逃れることは不可能でしょ？」

そんなことはありませんよ。自動反応を止めようとなんてしないで良いんです。そんなことをしようとしたところで、反応がより激しくなるのが関の山ですよ。

あなたに必要なことは自動反応を止める事じゃない。その反応から重点を移すことなんです。

「どいこでもか？」

**実際の有様にですよ。**

あなたがそれに気付けば、その不毛な自動反応の方ではなく、実際の有様の方にあなたは勝手に向きを変える。

「こっちか！」

「こういふことか！」

というように。

一切の抵抗なくです。

だから気づきが重要なんです。

気が付いていないかもしれないけど、あなたはその自動反応をすっかり信頼しきって、普段からそれに基づいた偏執狂的な視点を頑なに維持し続け、目の前の一点のみをじくっつと注視し続けている。でもあなたがその偏執狂的な視点を放棄して

「ああ、くたびれた」

と言ってリラックスすれば、あなたの頭上に果てしない青空が広がっていることに気付く。

**実際の有様が勝手に視野に入ってくるといわけ。**

そうしたら自動反応については気にかけないで済む立場を勝手に取れることになっている。

その時あなたは、実際にある豊かさを経験することに没頭することになっているのだから。



# *Chap. 1*

## **お金の正体**



## 必要不可欠という誤解

「うーん、少なくともここまででは実用的というより形而上学的なお話のようですねえ」

それじゃ説明は済んだので、私はこの辺で…。

「ちょ、ちょーっと待ってー…後<sup>あと</sup>どうするんですかー！」

あなたが進めてくださいよ。

「そんなの無理無理ー！」

そうですかね。あなたの話を聞いていた方が、お金の正体について非常に理解しやすいと思うんですけどね。

「お金の正体？」

そう、正体。

「お金はお金でしょう。それ以外の何者でもない」

本当にそう考えていてくれるなら、話は早いんですけどね。

でも実際にはそうじゃないでしょう。あなたは「お金とはこれこ

れこういうものだ」とお金に対してある定義付けをしているけど、その定義付けはお金の正体ではないんです。

「じゃあ、お金の正体って一体何なんですか」

その前に、あなたがお金に対して行っている定義付けの方についてお話ししましょう。

あなたが「お金とはこういうものだ」と考えていること、それは単なる「概念」です。

「概念？」

そう、概念。実体ではないんです。

既にここまでのあなたの発言で、あなたや多くの人々にとってお金というものが一体どういった概念なのか、とても分かりやすく表現されていますよ。

「そんなつもりは全くなかったけどなあ…」

あなたは最初にこういいましたよね。

「お金というテーマはシビアでセンシティブな問題だ」

「ええ、言いました」

なぜお金は「シビア」で「センシティブ」なんですか？

「そりゃ、お金が私たちの実際の生活と極めて密接に結びついているからですよ」

じゃあ、あなたが瞑想をしますとします。

この瞑想だってあなたの生活に密接に結びついているでしょ。

どうして瞑想は「シビアでセンシティブ」じゃないんですか？

「瞑想は生活と密接に結びついてなんていませんよ」

そうですかね。

「そうでしょうか？別に瞑想を一日や二日やらなくたって、いや一ヶ月やらないとしても…それどころか一生瞑想をやらなくても、生活上特に支障が出たりしないじゃないですか。むしろ「瞑想を日課にしている」なんて人の方が極めて少数派です。一生瞑想をしないなんて人はいつくくうでもいますよ」

だから瞑想は生活上何の必要性もないと？

「そこまでは言ってませんが、なくても特に困らないって言うてるんです」

果たしてそうでしょうかね。

瞑想を毎日の習慣にしている人にとっては、それはなくてはならないもの、なければ困るものになってるんじゃないですか？

「そりゃ、そついう人にとってはそつかもしれないけど、そつじゃない人にとってはなくても良いものぢやよ」

瞑想が誰にとっても普遍的なものかどうかを議論しているんじゃないよ。瞑想が習慣となっている人にとっては、それはなくてはならないものじゃないか、と言っているんです。

「なんだか強引に誘導されているような気がするなあ…。」

そりゃ『それがなくてはならないもの』になっちゃっている人にとっては、それは確かに『なくてはならないもの』なんでしょう。

「コーヒーが『なくてはならないもの』になっている人にとっては、コーヒーはなくてはならないものですよ。お酒が『なくてはならないもの』になっている人にとっては、そりゃお酒はなくてはならないものですよ。タバコがなくてはならないものになっている人にとっては、以下同文ですよ。」

でも、それはあくまで『その時点』での話じゃないよ

その時点での話？





# MONEY

---

2012年7月20日 初版第1刷発行

著者 108  
発行 インテグレイテッド・インフォ

---

©108  
All rights reserved

本書は著作権法によって保護されています。  
本書の内容を無断で転載、記載することは禁じます。  
本書を無断で譲渡・転売することを禁じます。